

25京LP第41号  
平成25年8月28日

京都、朝日、毎日、日本経済各新聞社  
代表取締役社長 様

一般社団法人京都府LPガス協会  
会長 小澤 八十二

京都府福知山市で開催された花火大会における  
火災事故にかかる報道について

平素は、LPガス業界の発展に深い御理解をいただいておりますことにお礼申し上げます。

さて、去る8月15日（木）京都府福知山市で開催された花火大会で大規模な火災事故が発生し、打ち上げを今か今かと心待ちにしていた多数の人々が炎をかぶり、巻き込まれ、被災しました。

協会としましては、約300の会員が一つになり、尊い命を亡くされた3名の方々に心から哀悼の意を捧げますと同時に、重軽傷を負われた多数の方々にお見舞いと、一日も早い回復を願ってやみません。

貴紙もこの事故を大きく取り上げられ、翌日の日刊から連日記事掲載に努められているところですが、8月16日（金）の日刊の見出しは、「露店で爆発59人けが 男児ら19人重傷 5人症状重く ボンベ引火か」（京都）、「屋台で爆発59人けが 福知山の花火重体・重傷19人 失火、ボンベに引火？」（朝日）、「花火大会爆発60人けが 屋台のボンベ 14人重症」（毎日）、「花火大会で露店爆発 子供含む58人搬送重傷19人 プロパンガスか（関東方面記事見出し）」「露店のプロパンガスが爆発した可能性がある（関西方面記事の本文中）」（日本経済）とあたかもLPガスボンベが爆発炎上したかの第一印象を読者すべてに与えるような表現をされておられます。

8月15日（木）夜間には、当協会役職員、地元協会支部役員等が現地に駆け付け、立ち入り禁止措置がなされている中、できるだけ近づき当該炎上した屋台を見たところ、LPガス容器（ボンベ）の損傷はほとんどなく、転倒もせず、容器の爆発の痕跡など全く見られなかったため、現地におられた多数の報道関係の方からの質問・取材にもそのことを繰り返し説明したにも関わらず、ガスボンベの爆発の印象を一般読者に強烈に与える記事の扱いは、業界をまとめる協会としては断固として許すことのできない報道のありかたと言わざるを得ません。

当日事故を目撃された方への取材もされ、発電機の給油手順のミスの様子も一定把握されていたとは思いますが、LPガス爆発のみを強く前面に出す記事の内容に府協会の会員はもとより全国の業界関係者から府協会に対し、報道の姿勢への疑問と地元協会の報道対応の仕方に問い合わせが殺到している状況です。

新聞報道は、当局発表を待つまでもなく現地調査や目撃者、関係者からの取材により、

把握された事実関係を揃えたうえで記事にされるものと思っておりますが、8月16日の記事は、屋台→LPガス使用→火災爆発は熱源であるLPガスに間違いはない、との先入観に囚われた憶測記事との疑問が拭いきれないことと、可能性の幅を広げておけば事実関係がどう展開しようが報道責任は免れるというような姿勢があるとしたらこのことに不信感を抱かざるを得ません。

後日報道は、当局発表もあり、ガソリン発電機が原因である内容に傾いてきており、結果的に事故翌日報道の取り上げ方とは大きく異なる結論に近づいております。

しかしながら、この記事で全国2,600万世帯消費者のLPガスの安全性に対する考えを大きく歪める結果が出てくることによる業界の受けるダメージは測り知れないものがあります。

このような、根拠の極めて薄い、不確かな、憶測に基づくと思えるような記事の掲載に強く抗議するところであり、このような記事となった理由の説明と訂正記事の掲載を要望いたします。

<問い合わせ先>

一般社団法人京都府LPガス協会

専務理事 吉岡 一寿

TEL 075-314-6517

FAX 075-311-3067